

## 波多野先生【日本建築の歴史】について、受講生から寄せられた質問

<p>・日本は7割森林だから木材資源が豊富で建築物も木造と説明します。住宅費は高いのに、今も寿命の短い木造住宅が多いのは、新築が好きとか気候には木造が合うということでしょうか？</p>
<p>日本建築については「寝殿造り・書院造り」より、東京を案内する場合、どうしても contemporary な建築が多くなります。古きよきものをいかした、日本ならではの、現代的な建築についてもご教授いただければ幸いです。</p>
<p>現代の標準的な日本の庶民の住まいが、海外のもの比べて何が異なっているのか？ 狭さとの共存。木の文化と石の文化の庶民生活レベルでの違い。</p>
<p>畳の歴史について特に興味があります。赤坂の迎賓館の屋上に甲冑の像がのっていますが、ほかに西欧建築で和風の装飾などがみられる建築物があれば教えていただきたいです。</p>
<p>日本の木造建築の歴史は、仏教伝来以前には存在しなかったのでしょうか？ 弥生時代の竪穴住居と飛鳥・奈良時代以降の仏教建築の間を埋める日本の建築史は余り聴き及ばない気がします。</p>
<p>海外でも高く評価されている日本と城郭建築について、海外とのコンセプトの違いはどのようなものがあるか。</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・寺院等、焼失した後再建できるのは設計図が残っているから？</li><li>・現代の日本の建築家の特徴は</li></ul>
<p>『日本の建築の遺伝子』は、木と紙であるといえるでしょうか？ 茶室を考えると、暗い中にある一瞬、光が入ってくる事があります。この移ろい、軽さ、といったものは、コンクリート建築を中心とした都市で次世代に受け継がれるものでしょうか？</p>
<p>日本の住宅建築で、2階建が出来るようになったのはいつ頃でしょうか。</p>
<p>日本の建築は古来より中国、朝鮮半島の影響が大きいですが、こうしたアジア系のお客様を案内する際に、日本ならではの特徴を意識したほうが良いのか、アジア文化の共通性を強調したほうが良いのかを教えてください。</p>
<p>木造建築、和紙を利用した襖や障子等日本の建築は耐久性よりも補修、作り直しの文化が浸透していると思われませんが、そうでないものもありますか？</p>

<p>建築仕様の変遷について。その時々の特徴について。          宗教建築について。屋根や素材での格式の差について。          近代建築について。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭と建物外観の調和をどのように捉えていたのでしょうか。</li> <li>・風水の影響はどの層の人たちにまで浸透していたのでしょうか。</li> </ul>
<p>・現代の日本家屋は、木造住宅やコンクリート住宅など、材質もデザインも多岐にわたると思いますが、海外の住宅と比較して、最も著しい特徴はなんなのでしょうか。</p>
<p>日本の寺院の建築と、日本が参考にした中国の寺院の建築は、屋根の形がかなり違います。日本の屋根の方が直線的です。(中国の方は反り返った屋根が多いようです。)このように、日本が中国のスタイルをそのまま真似をせず、独自のスタイルを持つようになった経緯に興味があります。</p>
<p>木造建築の説明が難しく(専門用語が多く英語でも知らない言葉があるので)理解を深めていただけず、自分も納得でき</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本独自の建築技術について</li> </ul>
<p>江戸時代、何度も大火事が起こりました。          その為、防火建築技術が発展したのではないかと思います。          江戸時代の防火建築技術の発展についてお聞きしたいです。</p>
<p>日本の伝統的な木造建築物の特色について。現代日本を代表する建築家たちの代表的作品とその特徴を分析し、世界ではどのように受け止められているのか。</p>
<p>神社(寺院)はこういう役割があって、神様を祀っている～など説明をはじめてしまいがちですが、実際、旅行者が神社や寺院を見たときに一番インパクトを受けるのはどういう部分でしょうか。さまざまな日本の建物を見るときに驚く(違いに気づく)のは屋根、間取り、木造…などどんなところでしょうか。そうした最初のインパクトのある部分からご紹介できればお客様にもスムーズにご説明できるかと思いました。          また日本には、国際的に活躍する建築家さんの建築物が多くありますが、そうした建築物も、古来からの日本の流れのなかで生まれているのでしょうか。結び付けてのお話をうかがえたら幸いです。</p>
<p>日光東照宮の建立で「小堀遠州が遠近法など西洋の手法などを取り入れ、境内全体の構想をリードしたという話」、「日光東照宮の数多くの彫刻を持つ建築は西洋の様式建築と似ているという話」など、江戸時代の日本建築へ西洋の建築がどの程度影響していたかを知りたい。宮元健次氏の著書などとても興味深いですが、主流の説ではないと聞くこともあり、お客様に話す事を躊躇する時がある。このような話の裏付けとなるような参考図書を知りたい。</p>

地震国日本に存在する多くの木造建築が数百年もの間、存在する匠が生んだ日本建築の素晴らしさを伝えていくことが重要であると思う。
日本建築の歴史的変遷や特徴について、あいまいな部分の整理。古代の木造建築がどのように保存されているのか。また、ヨーロッパでは古い教会の廃墟などに歴史を感じる趣があると思う。日本の建築物の「再建」は外国人にとって魅力があるのか。
現在考慮中。お客様は日本の近代(現代ではない)建築に興味を持っているのかと思うことがある。
・日本建築において、白銀比が生まれた経緯、理由。
石の家と違って木の家であること、同じ木でも高床式であること、畳の使用、などが伝統的日本家屋の大きな特徴と思われるが、そこに行きつくまでには、資材調達、技術、気候、文化など様々な背景があつてのことと思われる。その辺のお話をじっくり伺いたい。
日本の古い建物は、度重なる火災や戦争で焼け落ちた建物が多いです。最初の建物を忠実に復元した例と、新しく再建された例、成功例と失敗例などがあれば知りたいです。
決められた年数ごとに行われる式年遷宮は、建材を無駄に使用することになるのでは、とご指摘を受けたことがあります。寺社自身が植林されて備えられている場合もあると思いますが、海外から建材を輸入することも多いのでしょうか。
日本の建築と欧米の建築の特徴の違いについてより詳しく知りたいです。
建築における石、産地や使用法、積み方 庭園と建物の関係
日本の建築様式の特徴と木造建築について、また現代建築の特徴とその発展についても学びたいと思います。
「歴史的建築物」に対する考え方として、建築当時の有り様を至上とする考え方がある一方で、時代の変化と共に積み重ねられる改変にこそ価値があるという考え方もあるが、この点についての講師の考えをうかがってみたいです。
新潟県には築200年以上の豪農、豪商の館・庭が多く残っています。建築の中には、日本人の哲学や美意識を感じられるものが多く、ガイドをする上で欠かせません。多くが存続できるかどうかの危機にあり、インバウンドでの起死回生を望んでいます。
伝統的な和風建築では、隣の部屋と隔てるのは襖一枚でプライバシーが保てません。特に江戸時代の長屋では、他人の家庭の音声も筒抜けでした。こういう住居の構造は日本人の国民性に根ざしたものなのか、それとも、こういう住居形態が日本人の精神のあり方に影響を与えたのでしょうか？
地震や湿気が多い風土がもたらした日本建築の特徴やなぜ木造建築が長持ちするのか